



NPO法人環境みらい下関インフォメーション

2012年1月 第103号

発行所

NPO法人環境みらい下関
〒751-0847
下関市古屋町一丁目18番1号
電話(083)252-7220
FAX(083)252-7222

環境みらい



《脱・自分バッカ》—責任意識の広がりにおいて



「脱・自分バッカ」は私の造語である。『日本を滅ぼす「自分バカ」』（勢古浩爾著 PHP 新書 2009年5月刊）を本屋で手にした時、ふと思いついた言葉が「自分バッカ」だった。

その新書では「自分バカ」を「自分の自尊心と利益を守ることだけが大切で、そのためなら他人という存在も、正義も、言動の美しさも、どうでもいい、と思っている人間のことである」と説明している。自分のことは自分のこととして責任を果たすのは当然として、自分が配慮すべき範囲を広げ、責任意識の広がりがないとすれば公共事業は担えないなど、土木工学を専攻した学生時代からずっと考えてきた。しかし最近土木の関係者もそうだが一般に「共益」や「公益」のより大きな価値や誇りを見出そうとはせず、自分の「私益」だけを気にかける人がどうも増えているように思えて、新書の著者の言わんとすることに同調したくなる。しかし、気の弱い小生、そんな「バカ」呼ばわりはなかなかできない。

「自分バッカ」は「自分のことばかり」という意味で使われることはすぐにおわかりのはず。「許(ばかり)」は口語で「ばっかり」と言い、さらにそれを縮めて、例えば「自分バッカいい目にあって」などと、限定の意味での「バッカ」は使われないこともない。現に、家事をほとんどまかせっきりの小生、家の中では女房から「自分バッカかまけて」とよく言われたりする。だから新書で言う「自分バカ」を「自分バッカ」と言い換え、なおかつ現下の状況を改変に導くために小生が提案する「脱却用語」の《脱・自分バッカ》の方をむしろ重視し、その言葉をより多くの人々が心するようになればよいと思ったのである。

《脱・自分バッカ》をここで取り上げている理由についても皆さんには察しがつくはず。《脱・自分バッカ》は、ゴミ減量や、地球温暖化防止をはじめとする環境問題の取り組み、あるいはNPOの活動における私たちの姿勢とも密接に関係している。つまり、《脱・自分バッカ》の構えがないと、なかなか環境問題に実践的に取り組めないように思う。私たちが企画する「環境みらい大賞」には、《脱・自分バッカ》の発想を持った人たちがたくさん応募する。そして、あのガレキの山を思い起こしてみよう。3.11の大震災と原発事故の後、捨て場所が確保できないことの苦しみを私たちは痛いほど知らされている。3Rの実践には使用後の製品の引き受け手である多様な捨て場所、そのための人間関係の豊かさ、ひいてはその前提である《脱・自分バッカ》の精神が必要なのだが、放射性物質の曝露はそれすらままならないものにしてしまうことも知らされた。だからよけいにいまこそ、《脱・自分バッカ》をいかに求めていくか、大事なところで問われているのではないか。

奇妙な造語かもしれないが、新たな年を迎えるに当たり改めて、責任意識の広がりにおいて《脱・自分バッカ》をより多くが志して欲しいと願っている。

NPO 環境みらい下関 理事長 坂本 紘二



お知らせ



謹賀新年

旧年中は大変お世話になりました
本年もよろしくお願い申し上げます



年末年始の開館日

年内は、12月27日まで



年始は、1月5日 から通常通り開館しております

フリーマーケット・リサイクル教室・3階貸し館の受付は、
1月5日午前10時～電話で開始します
(午前10時までは電話が繋がらない状態になっています)

寄贈品の受領についてのお願い

寄贈受領品目

食器・陶磁器、衣料品、書籍



現在、上記3品目をリユース品として寄贈いただき、それを望まれる方々に安価に提供し、限りある資源の節約に努めておりますが、最近リユースできない汚れもの等が多く見受けられるようになりました。

つきましては、大変恐縮ですがお持ち込みの品物を確認させていただき、リユースできない品物があった場合には、お受け取りできかねますので、予めご了承ください。

皆様の、ご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

※しばらくの間、廃油の引き取りは中止します※

毎月 **第3金曜日** は

下関 ノーマイカーデー

【滝部駅の利用促進にご協力下さい】

CO₂を削減して、地球を救おう！

公共交通機関、自転車、徒歩、相乗りで通勤しましょう

滝部駅、利用してね～！



しものせき環境みらい館 ご利用案内

- 開館時間 10:00～17:00まで
- 休館日 月曜日 (祝日の場合は開館し翌日休館)

年末年始の休館日
(12月28日から1月4日)

サンデンバス停「**堀田**」「**稗田中央**」より徒歩 約5分
電話 (083) 252-7220 FAX (083) 252-7222
<http://www.kankyo-mirai.jp>



1月のリサイクル教室のご案内

曜日	日時	講座名 講師名	講座内容
火	17日 10～15時	組みひも 津森 美智子	古布及び毛糸などを利用して、帯締めや各種ヒモ類を作ります。 持参する物：参加料 400 円・弁当・裂き布・毛糸など 定員：4名
	24日・31日 10～12時	着付け 津森 美智子	持参する物：参加料 400 円・着物・帯・その他小物 定員：10名（2日間参加できる方限定）
	24日・31日 13～15時	和服のリサイクル 芳川 妙子	布のリフォーム・着物や帯で袋物やベストを作ります。 持参する物：参加料 400 円・ゆかた・着物・帯・裁縫道具 定員：10名（2日間参加できる方限定）
	17日 10～12時	廃食油で石けん作り 福井 和恵	持参する物：参加料 150 円・牛乳パック・エプロン ゴーグル・手袋・マスク・コーヒー等の空瓶 定員：20名
水	18日 10～12時	布あそび 森田 芙路恵	持参する物：参加料 400 円・不用の布・裁縫道具 定員：15名
	18日 13～16時	古布でぞうり作り 佐藤 緑	持参する物：参加料 400 円・30 cmものさし・はさみ 洗濯バサミ 2 個 綿で縦布(幅 10 cm、長さ 60 cm)4 0 本（幅 9 cm、長さ 75 cm)1 本 （幅 2 cm、長さ 35 cm)4 本（幅 6 cm、長さ 45 cm)1 本 定員：10名 1月20日と2日間できる方限定。
木	5日・19日 10～14時	古布で小物 永岡 ハツエ	古布で「季節の小物」を作ります。 持参する物：参加料 4 0 0 円・裁縫道具・手芸用ボンド・軽食 定員：1 0 名（2日間参加できる方限定）
	12日・26日 10～12時	パッチワーク 小笠原 典子	ミニタペストリー・バッグ・小物などを作ります。 持参する物：参加料 400 円・裁縫道具・材料のハギレ 定員：10名
	12日・26日 13～15時	毛糸で小物 内田 チズ子	最初はあまり毛糸でタワシを作ります。 持参する物：参加料 400 円・中細くらいの毛糸・カギ針 4～5 号 定員：10名
	12日・26日 13～16時	表具 森 宏司	掛け軸や色紙掛けを作ります。 持参する物：参加料 400 円(材料代別) 定員：5名(2日間参加できる方限定)
金	6日 10～12時	布あそび 森田 芙路恵	持参する物：参加料 400 円・不用の布・裁縫道具 定員：15名
	20日 13～16時	古布でぞうり作り 佐藤 緑	18日の続きから編みます。 2日間参加できる方限定。
	27日 10～14時	エコクッキング 家根内 清美	場 所 山口合同ガス(株)体験ハウスひまわり館 下関市本町三丁目 1 番 1 号 持参する物：参加料 600 円・エプロン・三角巾・筆記用具 定員：20名 申込期限 1月20日(金)まで
	13日・27日 10～12時	裂き織り 小笠原 典子	木綿や絹の古着を裂いて、バッグ・インテリアグッズを作ります。 持参する物：参加料 600 円・木綿や絹の古着・ハサミ 定員：8名
土	7日・21日 10～12時	布のリフォーム 高田 和代	古い着物も蘇らせ、自分でリフォームした自分だけの一着。 持参する物：参加料 400 円・裁縫道具・解いた服や着物 定員 10 名：
日	8日・22日 10～12時	ガラス工芸 木下 照親	ガラスに砂を吹き付け、オリジナル作品を作ります。 持参する物：参加料：1日 400 円・ガラス製のコップ・鉛筆 定員：10名
	15日 10～12時	生ごみ堆肥&ベランダ 菜園 和田 猛則	生ごみ堆肥作りとベランダ菜園実習。 持参する物：参加料無料 定員：10名

NPO法人環境みらい下関の教室・講座の申込み方法

1月5日午前10時～電話受付を開始します

<申込みが少数の場合及び講師の都合等により、中止や延期になる場合がありますのでご了承ください>

「環境みらい下関」は、自分たちで相互に、語り合い、学び合い、考え合いながら、より多くの市民がゴミ減量・省エネを初めとする環境実践を進めるようになること、そのための場と機会を提供し続けること、そして、行政や企業とも協働しながら下関市における循環型社会の形成に貢献すること、を目標に、2003年6月から下関市初の公設民営のリサイクルプラザである「しものせき環境みらい館」の啓発棟の運営に携わってきて、来年で10周年の節目を迎えます。

廃棄物問題の解消を中心に据えながら、エコロジーへの取り組みの情報ネットワークの拠点となり、市民相互、市民と企業・行政間の連携・協働が一層強まって行くこともめざしてきました。

- これまで、取り組みの標語として、年度毎に
- ・「3R活動を推進し〈循環型都市づくり〉をめざそう」
- ・「〈MOTTAINAI〉を広めよう、深めよう」
- ・「家と職場そしてあらゆる場所で〈ゴミ減らし〉を実践しよう」
- ・「〈星づくり都市しものせき〉を実現しよう」
- ・「〈STOP地球温暖化〉を表現しよう」などを、

そして本年は

- ・「〈EPR(拡大生産者責任)〉と
- 〈C2C(ゆりかごからゆりかごへ)〉を広めよう」

を掲げてきました。

10周年を節目に、心機一転さらに活動を活き活きと広げていけるよう、シンボルマーク等を一新します。



NPO法人 環境みらい下関

「NPO法人環境みらい下関」では来年度設立10周年を迎えるにあたり、シンボルマークを一新いたします。

海峡の街にあり、市民に親しまれながら環境問題の啓発と情報発信に取り組む私たちの新しいシンボルをお待ちしています。

主な活動内容

「環境みらい下関」は、循環型社会の形成に向け、関係諸団体と交流・連携を図りながら、環境問題に関する情報の収集と発信だけでなく、自転車や家具などを修理再生するための工房の設置や各種リサイクル教室の開催とリサイクル品の販売、企業や団体によるさまざまな環境への取り組みの展示など、幅広い事業を行っています。また、下関市街地周辺の農山漁村部地域と交流しながら、市街地にも自然が取り戻せるよう、緑の菜園を広げる「星づくり都市しものせき」の活動にも取り組んでいます。



左は現在のシンボルマークです。今回の募集でリニューアルしますので、これを特にベースにする必要はありません。

募集要項

応募方法	チラシの裏面もしくは白地のA4用紙に、①部門名 ②作品の説明(コンセプトなど) ③氏名(ふりがな) ④年令(児童・学生の場合は学校名と学年) ⑤性別 ⑥住所 ⑦郵便番号 ⑧電話番号を記入して下記まで郵送にてご応募ください。 ※一人何点でもご応募いただけます。 〒751-0847 山口県下関市古屋町一丁目18-1 NPO法人環境みらい下関 シンボルマーク募集係宛
応募資格	特にありません。 ※グループ、企業団体での応募も可
賞及び賞状	最優秀賞各部門1名… 賞状・副賞3万円 優秀賞各部門3名… 賞状・副賞1万円 佳作各部門5名… 賞状・副賞5千円 ※部門によっては該当者なしとさせていただく場合があります。 ※各賞入賞者が児童・生徒の場合の副賞は、金額相当の図書券となります。
募集締切り	平成24年1月31日(火)まで (郵送の場合は当日消印有効)
結果の発表	平成24年3月末日 に、当法人のホームページ上で発表するとともに、入賞者に直接通知します。
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・応募作品は未発表かつ自作の作品に限ります。 ・応募作品は返却いたしません。 ・応募作品については当法人のHPや印刷物等に使用させていただきます。 ・入賞作品の著作権は当法人に帰属します。 ・最優秀作品は、必要に応じ修正を加えた上で、使用されることがあります。 ・応募に要する一切の費用は応募者の負担となります。 ・応募者の個人情報は入賞の連絡のためにのみ使用します。

募集内容

今回は以下の3部門で募集します。

※それぞれを組み合わせた作品でも構いません。

シンボルマーク部門

キャラクターではなく、名刺や各種印刷物等への使用に配慮したシンプルなマークを想定しています。

※ロゴタイプ(法人名)の有無は問いません。
※色は三色以内、グラデーションは不可

キャラクター部門

現在のマークのような親しみやすいキャラクターを想定しています。

※ロゴタイプ(法人名)の有無は問いません。
※色数の制限はありませんがモノクロでの使用においてもイメージが損なわれないよう留意してください。
※特に“ふぐ”をモチーフにする必要はありません。

ロゴタイプ部門

法人名(NPO法人環境みらい下関)の文字をデザインしてください。

※色は三色以内、グラデーションは不可
※英語表記の有無は自由です。